

2017. 6. 9 (晴れ) 76名

自然ウォッチングの記録



トクダミ

●鳥 キビタキ、ホトキス、ヒヨドリ、ハソボツガラス、メジロ、エナガ、ウグイス、コジュケイ、セグロセキレイ、カイツブリ、カウ、カルガモ

●樹の花 ウメトキ、タイサンボク、テイカカズラ、ネジキ、クリ、クログネモチ、ムラサキシキブ、ヤマアジサイ

●草の花 イチャクソウ、ツルアリトウシ、トクダミ、ヒメジョオン、

ノアザミ、コモチマンネングサ、ワルナスビ、コナスビ、キキョウソウ、スイレン、カキラン、コバノトネボソウ、ジガバチソウ、ササユリ、オオニワゼキショウ

●昆虫 モンシロチョウ、キチョウ、サトキマダラヒカゲ、ツマグロヒョウモン、コムシジ、イチモンジチョウ、コジャノメ、アオスジアゲハ、ヤマトシジミ、ツバメシジミ、ベニシジミ、ウラギンシジミ、テングチョウ、ダイミョウセセリ、カノコガ、ヒョウモンエダシヤク、コシアキトンボ、シオカラトンボ、オオンシオカラトンボ、ハラビロトンボ、サラサ



ハラビロトンボ(腹面)

ヤンマ、クロスジギンヤンマ、モノサシトンボ、クマバチ、クモラルハナバチ、トラマルハナバチ、ナナフシ

●他 アオダイショウ、スッポン、ゴミグモ、ヤマシロオニグモ、オナガグモ

ウォッチングの中から

二日前から梅雨入りですが、カラッとした陽気になりました。

クログネモチの花は小さく地味ですが、虫たちには人気があるようで、ハチやチョウがたくさん集まっています。虫たちによる刺激のためか花ガラが雨のように降り注いでいました。

ハラビロトンボのおなかにはぺちゃんこですが下面に黄色の斑紋が見られます。ナナフシは先月のものよりかなり大きくなっていました。



ナナフシ

なるほど植物園

ハス

最新の植

物分類で、ハスはスイレン科から別れてハス科になりました。それも近縁でも何でもない遠い間柄です。スイレン科は被子植物ではあるものの、単子葉類にも真正双子葉類にも属さない古いタイプの植物で、一方のハス科は進化した真正双子葉類だということです。動物でいうと、鳥とコウモリもしくは魚とイルカぐらいの違いはあるようです。



そのハスの特徴の一つは、水から抜き出で空中で広がる葉です。重い葉を上を差し上げかつ保持するためには頑丈な柄が必要ですが、これは日照権争いに勝つためのコストでしょう。ところがこのハスも春から初夏の頃はスイレンのように水面に葉を浮かべます。この季節はまだ水面に余裕があるので、無理に立ち上がらなくても光を浴びられるからでしょう。ハスもまったり漂っていたいというのが本音のようです。

さて、平坦な浮水葉に対して空中で広がる葉は盃状をしています。同じく盃状で切れ目のない葉にはサトイモやナスたちウムなどがありますが、この形状にはどんな意味があるのでしょうか。

切れ目がなくぐるりと一周つながった盃型には、立体構造で垂れ下がりにくいというメリットがあるようです。ためしに割り箸を乗せてみると、薄く柔らかい葉がしっかりと荷重を受け止めました。葉に切れ目のあるフキなどは、自身を支えるために硬い葉面と太い葉脈を備える必要があるのです。

このように力学的には優れたハスタイプの葉も雨水を溜めてしまうという欠点があるためか、葉っぱの世界では残念ながら少数派となっています。(高谷)



この情報紙のメール配信サービス(無料)ご希望の方は HP (<http://www.aichishinrin.jp/>) の「お問い合わせ」から「コン森通信希望」と記して送信してください。

発行 2017. 6.10
愛知県森林公園指定管理者 ウッドフレンズ
共同企業体 (株)ウッドフレンズ/(株)フジプロパティ/
(株)建光社 0561-53-1551